



9月号

平成5年9月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

<いつの日か　君たちも>

「あつ」
時を得て
アゲハは空へ舞いあがる
「やつたあ」の大歓声と
熱いまなざしを背に受けて

「羽がのびたよ」
「もう、とべるよね」
授業中もチラリチラリ
君たちの視線はアゲハへ

「先生、アゲハが出てきたよ」
「羽がくちやくちやだよ」
「だいじょうぶかなあ」



(ニワトリさん こんにちはー広幡小)

— 教育隨想 —



教師の努力に 敬意と感謝

前愛知教育大学教授

竹内 清



岡崎市の実践

しかしそれらを見ると、こんなや
り方で果たしてよいのだろうかと疑
間に思われるものが多い。
どのような意見も、どのような試
みも、登校拒否児たちを再び登校出
来るようさせないことには何の意
味もない。

増え続ける登校拒否

「中日新聞」(八月九日付)の記事によると、登校拒否児童・生徒数は全国で七万人に達したこと。い

つこうに歯止めがかからず、増えるばかり。もうぼつぼつ児童・生徒数は減少してきているのではないか。
そういう中で増加してきているとい

うことは、増加率の加速化現象が起きていることになる。

岡崎市の場合

全國的に増加している中で、岡崎市のみが一年にわたって減少させて

いるので、各地で登校拒否児に対する新しい試み、変わった珍しい試みがある。新聞、週刊誌等に紹介される。ニュースになるからである。

マスクミニ報道

岡崎市登校拒否対策協議会の力添えもさることながら、これは、現場の教師（各小・中学校の委員、及び担任その他）の努力の賜物であり、心からの敬意を禁じ得ないところである。

実践こそ使命

しかし、このような地道で堅実な実践は、外部に華々しく目立つことではないので、マスクミニに取り上げられることもない。

大切なことは、確実にこの子らを治してやることである。教師としての実力をますます養つて、一人でも多くの子供を救つていっていただきたい。

(たけうち きよし)

健
康

南中学校長

大須賀 明彦



計画した行事などに対しても「これはうまくやれない」からやめた方がいいかななどと、行事の実施について、考えることがすべて否定期的で消極的な方向へと向かうことになります。

ところが三、四日すると、同じ行事に対して「うまくやれないはずがない」とか「こんな行事くらい自分一人でもやってみせる」と、随分強気で樂天的な見方をするようになります。

自分のこうした気持ちの変化がどうにも不思議に思えて、なぜこんなふうに考え方方が変わるのでだろうと、悩んだことがあります。

よく分からないので、そういう考え方をした前後一両日のいろいろな様子を全部拾い出すようにしました。考え方の変化が何に起因するのか知

ふるさとシリーズ

この人に聞く



岡崎青年会議所理事長

佐谷 智氏

岡崎青年会議所（岡崎JC）の理

事長である佐谷氏は、康生通りの一角にある宝石店宝金堂の店長でもある。その佐谷氏にお話を伺う機会を得た。

訪れた宝金堂の店の奥には、賑やかな繁華街からは想像もできないよう、落ち着いた雰囲気の日本間があつた。その中央に座られ、大柄な体で身振り手振りを交え、熱っぽく語られる佐谷氏。その話の数々に、時間を忘れて聞き入ってしまった。

J Cとは、次代を担う二十歳から四十歳までの青年指導者の団体の

ことである。お話を聞いてまず驚いたのは、岡崎JCの活動の多さである。古くは、市内の国道一号線の車線拡幅に二十年も前から運動を展開されている。また最近では、アトミックジムを寄贈しながら各学校をまわる「おはようデー」、水質検査や川ざらいを継続的に行う「河川美化活動」に精力的に取り組まれている。

「乙川を日本一の清流にしたい。それには、二十年三十年はかかると思ふんです。その動機づけをする

第一歩として、地域の人たちと川ざらいをするJCの活動があるんです。地域の人たちの意識が芽生えた後、そこでJCの活動は終わ

ります。

氏名 さとに さとし
生年月日 昭和三十一年一月二十八日
住所 康生通東一ノ十八

四十歳までという年齢制限があるのも、JCの大きな特色だろう。しかししながら、四十歳で終わりという

ことではなく、そこから社会開発という本体験が始まるというのだ。

最後に「教育」についてお尋ねしたところ、こんな言葉を頂いた。

「他人に少し言われたぐらいで、ぐらつくような信念では困ります。热血先生が減ってきたような気がします…」

りたかたからです。いくらもしないうちにかなりはつきり分かつてきました。

風邪がみだとか、微熱があるとか、胃や腸の様子が幾分おかしいとか。つまり、健康状態が万全でないとき、必ず引っ込み思案で否定的な考え方になります。決してそうではありません。

大勢の生徒をあずかっていて、その生徒たちに「常に積極的であり、建設的であれ」と説いてきたのに、健康が優れないということ自体が、既に大きな罪を犯しているかも知れないということに気付かされました。

「教師は無意識のうちに罪を犯していることがある。心して毎日を過ごさねばならない」。そう言われた先輩の指導を思い出します。

心身ともに健康であることが大切であることは、耳にたこが当たるくらい聞かされてきたことです。私自身もそういうことを職員や生徒に話したこともあります。

「心」と「身」とは昔からの諺どおり決して別なものではありません。健康でありたい、健康でなければならぬ、そんなことを強く教えられたことでした。

を積み、自分を磨くんです」



からだ あやつ 体を操る

～伸びる体操型スポーツ～



昭和三年十一月、昭和天皇即位を記念し「ラジオ体操」が実施された。以来六十有余年、「体操」と言えばラジオ体操がその象徴となり、人々の生活の中に定着していった。

ところが、高度経済成長期に入つて、スポーツが見る対象として国民の中に入りだし、体操型スポーツは他のスポーツ領域に比べ、人気も人口も伸び悩み、いつの間にかラジオ体操も人々から離れていた。

しかし、体操型スポーツは、ここ数年生涯スポーツの声と共に、手軽に健康を保持増進できる種目として一躍脚光を浴びることになり、今や類型別加入人口調査（県スポーツ課調査）ではトップに位置されるようになつた。新しい時代の流れの中で、体操は、姿を変えて人々に支持されるようになつたのである。

本市においても、体操型スポーツは、教室・講習・講座などを中心にさまざまな場所で実施されている。「健 康体操」「太極拳」「ヨガ」「3B体操」「ウォーターエアロビクス」「ジャズ体操」と、枚挙にいとまがない。市民の健康に寄与すること大である。自分の能力に合わせて、自在に体操する不思議な魅力に、今、体操型スポーツは全盛期を迎えている。



▲ リズム感を養う幼児リトミック



▲ 子供を対象とした体操教室



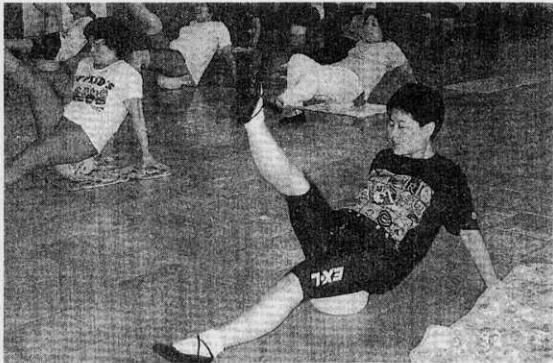
▲ 軽快なリズムに乗ってエアロビクス



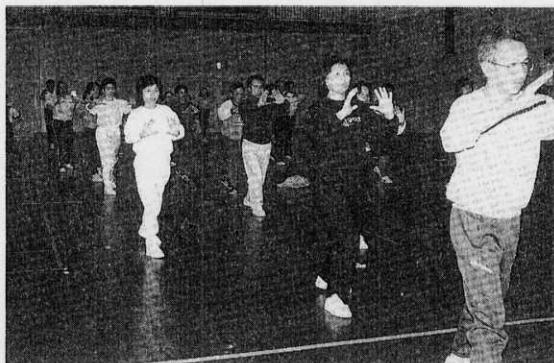
▲ 水の動きを生かしたウォーターエアロビクス



▲ 年齢を問わずさかんになるヨガ



▲ ポールを使った3B体操



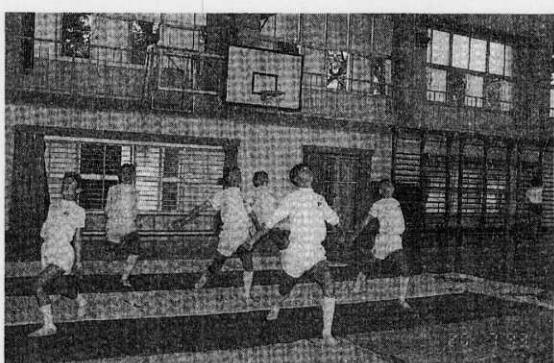
▲ 漢方医学を基礎にした意身功（いしんこう）



▲ 心と体、そして呼吸と動きを一致させる太極拳



▲ 「健康体操の理論と実際」を学ぶ指導者講習会



▲ 中学生の集団徒手体操



▲ 体の筋の伸展を繰り返すストレッチ運動

・表紙写真
・カット

広幅小
常南小

岩城正枝
藤原千恵美
山田薰

岡崎市内の学校で、今も通用門として使われている一番古い校門が秦梨小学校にある。その門は、高さ二・二メートル、幅四十五センチメートルの石柱門である。秦梨小学校は、明治六年「三省学校」として開校された。民家を借用しての開校であったために校門は立てられなかつた。現存の校門は、明治三十三年五月十日に、皇太子殿下御慶事祝

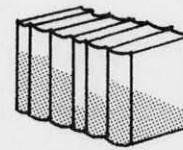
校門は、昔から学校のシンボルとして幾多の児童生徒たちを迎える、心の大きな支えとなり、成長した彼らを送り出してきた。

十五年設立の岩津小学校北門、明治四十五年の矢作南小学校正門、大正八年前後の藤川小学校正門、大正八年の矢作西・本宿両小学校正門、大正十四年の常磐小学校校門などがある。



(秦梨小学校校門)

校門



この本を

*「心なおし」はなぜ流行る	宮田 登	¥2300
小学館	中村 光代	¥1200
*ホタルの日記	エフエー出版	¥1200
*サルの正義	呉 智英	¥1200
双葉社	岩國 哲人	¥1000
*次代を創る	学習研究社	¥1000

※奈良美術の系譜	小杉 一雄
平凡社	¥2800

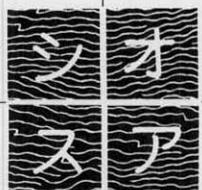
飛鳥、天平の文化財を豊かに今に伝える我が国を幸せに思う。そして、単なる世俗的物見遊山の観光を反省させられる。

研究生生活60余年、85歳の東洋美術史専門の筆者が、2年余り没頭して本書を全編書き下ろす。専門用語・学術語はあるが、写真や図絵を示し、私たちにも分かり易く論理的に、奈良美術の系譜を中国古代に身を置いて説き明かす。

奈良美術の美しさ、値打ちを確かめるべく、大和の旅へのいざないに駆られる。

岡崎は昔から教育に熱心な町であった。今回の「泉」の取材でそれが再確認できた。明治六年に二十六校の学校が開校された。そして、明治十三年には三十六校となり、その時期の就学率は実に五十三・七パーセントと大変高いものであつたという。

今は使われなくなつてしまつたが、大樹寺の山門を門にした大樹寺小学校や昔の校舎の基礎石を基礎にして造り直した梅園小学校校門がある。



あれだけ水が怖くて仕方がなかつた泣き虫Kちゃんが泳げるようになった。スマッシングスクールでもできなかつたことを、クラスの二人の仲間がいとも簡単にやつてのけた。「七夕様にお願いが通じたね」。仲良し三人組の笑顔がまぶしい。

市民運動の先頭に立つて活動している岡崎青年会議所。その活動範囲の広さと、きめこまやかな活動に驚かされた。水質検査における、子供たちの主体性を生かした活動は、ともすれば知識を教え込もうとしてしまいがちな自分自身の反省にもなつた。

すすきが風になびいて、さわやかな感じがする。このすすきを見度に思い出すことがある。母が空き地にすすきをさしてお供え物をあげ、お月さんをうやうやしく揺んでいる姿が目に浮かぶ。この行事も多忙な生活におしつぶされ、薄れていくのが寂しい。